

# 読響

Yomiuri  
Nippon  
Symphony  
Orchestra

ナナシが得意のバルトークを群烈に響かせ、狂気漂う孤高の鬼オトウバルグが別世界へと誘う!

**ヘンリク・ナナシ** 指揮 欧米の歌劇場で華々しく活躍し、注目を浴びるハンガリーの俊英

**リュカ・トウバルグ** ピアノ 狂人が妻人か、世紀の天才か? 欧州でブレイク中のフランスの鬼才

コダーイ: ガランタ舞曲  
サン=サーンス: ピアノ協奏曲第5番 へ長調 作品103「エジプト風」  
バルトーク: 管弦楽のための協奏曲

読売日本交響楽団 第590回 定期演奏会

2019 **7.11** 木 19:00 **サントリーホール** S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,000

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10:00-18:00・年中無休)

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団  
助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会  
協力: アフラック



# 俊英ナナシがバルトークを鮮烈に響かせ、 狂気漂う強烈な異才ドゥバルグが共演!

指揮者の名は、ナナシ。日本では一風変わった発音を持つ、ハンガリー出身のヘンリック・ナナシの名は、近年急速に世界に広まった。彼の名を知らしめたのは、先鋭な舞台で高名なベルリン・コミッシェ・オーバーの音楽総監督時代(2012年～17年)。その間、欧米でメキメキと頭角を現し、英国ロイヤル・オペラ、バイエルン国立歌劇場、パリ・オペラ座などに客演を重ね、今年にはニューヨークのメトロポリタン歌劇場でバルトーク「青ひげ公の城」などでデビューを果たし、大きな成功を収めた。

そんな飛ぶ鳥を落とす勢いのナナシが、読者と初共演を果たす。当初、2018年3月に初共演を予定していたが、残念ながら病気で叶わず、1年4か月の延期となった。今回は、得意のハンガリーものを中心に携えての「リベンジ」となる。

1曲目は、コダーイ「ガラタ舞曲」。作曲家が幼少を過ごしたガラタの地の民謡を題材とした野性味あふれる作品で、ナナシの濃厚でオペラ的なドラマティックな表現が聴きものだ。

続いて演奏するのは、サン＝サーンスのピアノ協奏曲第5番「エジプト風」。アフリカを何度も訪れるなど旅行好きのサン＝サーンスがエジプトで仕上げた協奏曲で、異国情緒漂う曲想が特徴の華麗な曲である。独奏を務めるは、フランス出身のリュカ・ドゥバルグ。"新世代の鬼才"として大ブレイク中の若手で、尖った性格と飽くなき探究心で異形の芸術家の道を歩んでいる。2015年のチャイコフスキー国際コンクールでは、すこぶる個性的で独特の世界観を持つ演奏で世界を驚かせた。今回の「エジプト風」では、繊細な表現から影を帯びた深い芸術性まで、彼の才能が存分に発揮され、規格外のスケールの大きな音楽が展開するだろう。

メインは、バルトーク「管弦楽のための協奏曲」。協奏曲といっても特定の楽器をソロとした協奏曲ではなく、オーケストラの各楽器をソロとして見立てている。この合奏協奏曲のようなスタイルは、出版社からの「J.S.バッハのブランデンブルク協奏曲の現代版を」との提案が影響したと言われている。プリミティブなリズムと民謡調のメロディを用いながら、全合奏での圧倒的な推進力を持ち、各楽器の性能が見事に表された傑作だ。ナナシのタクトは、土俗的で独特な音色を引き出しながら、オーケストラを巧みにドライブし、鮮烈な響きを作るだろう。ナナシの日本デビューに期待が高まる。

## HENRIK NÁSI

Conductor  
ヘンリック・ナナシ 指揮



## LUC DE BRUGHE

Piano  
リュカ・ドゥバルグ ピアノ

ドラマティックかつ起伏に富んだ指揮で世界の注目を浴びる俊英。2012年から17年までベルリン・コミッシェ・オーバーの音楽総監督を務めた。演出家コスミーらと数々の名舞台を作り、13年と15年にはオペラ専門誌「オーペラヴェルト」で年間最優秀劇場に選ばれた。メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラ、ハンブルク歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、チュリヒ歌劇場、アラントフルト歌劇場、バルセロナ・リセウ大劇場などで活躍している。ウィーン放送楽、リンツ・ブルックナー管、フレンツェ五月祭管、アトランタ管などにも登場し、好評を博した。ハンガリー生まれ、バルトーク音楽院とウィーン国立音楽大学で、A.バヤパーノらのアシスタントを務めた。

「真の天才」と世界を驚かせるフランスの鬼才。1990年生まれ。11歳でピアノを学び始めたが、一度ピアノから離れ、パリ第7大学で理学及び文学の修士号を取得。その後、再びピアノの道を決意し、パリのエコール・ノルマル音楽院などで学び、15年に修士号を取得。14年アリエヴァ国際コンクール優勝。15年チャイコフスキー国際コンクールでは優勝候補の筆頭と目されながら、結果は第4位入賞。しかしモスクワ音楽批評家協会特別賞をたぐい受賞し、多くの称賛を集めた。今や世界各地の著名な会場でリサイタルを行い、ゲルギエフやフェドセーエフ、クレメルら巨匠と共演している。ソニー・クラシカルと専属契約し3枚のCDをリリース。文学、絵画、映画やジャズにも情熱を持ち、自身で作曲も行っている。

読売日本交響楽団 第590回 定期演奏会

2019年 7月11日(木) 19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C ¥4,000

●東京メトロ南北線六本木一丁目駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ有楽町線溜池山王駅(13番出口)より徒歩約7分

※学生の方は、開演15分前に指定席がある場合、¥2,000で購入できます(学生証/25歳以下)。ただし、席を譲渡することはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。  
※席次により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。■未読学生のご入場は、固くお断りいたします。

読売チケットセンター 0570-00-4390

●10時～18時・年中無休

読売チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

●座席選択可 / チケット送料無料

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017